

当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

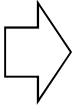
資料 3

No.	医療機関名	今後の役割・方向性 <small>令和4年 4月～5月 「2025年に向けた対応方針アンケート」より</small>	機能転換等の内容  (一般病床・療養病床)		転換等の時期  (見込)
1	伏虎リハビリ テーション病院	【C】地域密着型 (軽症患者の救急受入、 急性期病院からの転院受入、 在宅復帰へ向けた医療など)	転換 ・ 廃止	2024年(令和6年)に新築移転 介護療養21床 → 医療療養2床、介護医療院12床、廃止7床(※) <small>※廃止7床は、第10回会議で合意済みの廃止10床の内数</small>  <移転後の機能別病床数> 回復期 36床 (増減なし) 慢性期 31床 (▲19床)	令和6年4月
2	日本赤十字社 和歌山医療センター	【A】救急拠点型 (重症患者の救急受入、 高度・専門医療など)	廃止	高度急性期病棟及び休棟の173床を廃止  <廃止後の機能別病床数> 高度急性期 606床 (▲72床) 急性期 86床 (増減なし) 休棟 0床 (▲101床)  <small>*感染症病床は従前通り</small>	令和4年度 ～ 令和5年度
3	国保野上厚生 総合病院	【C】地域密着型 (軽症患者の救急受入、 急性期病院からの転院受入、 在宅復帰へ向けた医療など)	転換 ・ 廃止	急性期病床43床を地域包括ケア病床42床へ転換、1床廃止 療養病床54床を廃止  <転換後の機能別病床数> 回復期 99床 (+42床) 急性期 & 慢性期 0床 (▲97床)  <small>*精神科病棟は従前通り</small>	令和5年1月

病床機能の転換・病床の変更等について

医療機関名 医療法人匡慈会 伏虎リハビリテーション病院

現在の病床機能【概要】				
＜令和4年4月現在＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料Ⅰ	36	86.3%
慢性期	1	療養病棟入院基本料Ⅰ	29	88.8%
	1	介護療養病棟	21	50.6%
計	3	－	86	－
(備考)				
・地域包括ケア病棟入院料Ⅰ（看護補助者配置加算）				
・療養病棟入院基本料Ⅰ				
・稼働率は令和4年4月数値				



今後の病床機能				
＜令和6年(2024年)4月以降予定＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料Ⅰ	36	
慢性期	1	療養病棟入院基本料Ⅰ	31	
計	2	－	67	
介護医療院	1	介護医療院Ⅰ型	12	(定員)
(機能転換・病床数変更等の概要)				
2024年新築移転時に、介護療養病床21床のうち、2床を医療療養病床へ転換、12床を介護医療院に転換、7床を廃止予定。				

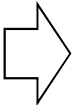
現在の病床機能【詳細】
2021年2月開催の当会議にて承認を得ている病床10床削減について、2022年4月に介護療養病床を24床から21床に減床（3床を廃止）。
地域密着型協力病院として回復期（一部急性期）から慢性期（医療と介護）の患者様の受け入れを行う地域唯一の病床機能を有する病院として、2024年新築移転前までは現状の病床機能と病床数を維持する予定。残り7床の廃止は、2024年新築移転時に行う予定とし段階的に削減する。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
急性期治療を経過した患者様の受け入れに加え、在宅等で療養を行っている患者様の受け入れを積極的に行い、在宅復帰支援を行う回復期病棟（地域包括ケア病棟）と、医療（医療療養病棟）と介護（介護医療院Ⅰ型）の慢性期病床を有するケアミックス型の病院として、地域医療に貢献し続けたいと思います。
＜地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等＞
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 指定済み

病床機能の転換・病床数の変更等について

現在の病床機能【概要】				
<令和4年4月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期	17	特定集中治療室管理料4/救命救急入院料3/ 救命救急入院料4/新生児特定集中治療室管理料2/ 新生児治療回復室入院医療管理料/急性期一般入院料1	678	82.0%
急性期	3	急性期一般入院料1/小児入院医療管理料2/緩和ケア病棟入院料2	86	77.7%
回復期				
慢性期				
分類なし	2		101	
計	22	—	865	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和5年度以降予定>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期	16	特定集中治療室管理料2/ハイケアユニット入院医療管理料1/ 救命救急入院料3/新生児特定集中治療室管理料2/ 新生児治療回復室入院医療管理料/急性期一般入院料1	606	
急性期	3	急性期一般入院料1/小児入院医療管理料2/緩和ケア病棟入院料2	86	
回復期				
慢性期				
計	19	—	692	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
・ICUの許可病床30床（特定集中治療室管理料4 8床 /救命救急入院料4 22床）から 24床（特定集中治療室管理料2 12床 /ハイケアユニット入院医療管理料1 12床）に変更。				
・173床を廃止し、許可病床692床（感染症8床除く）に変更。病床の廃止については、順次実施すること。				

現在の病床機能【詳細】		
当センターは35の標榜診療科、865床の許可病床を有する総合病院です。 高度救命救急センター、和歌山県総合災害医療センター、第一種・第二種感染症指定医療機関、臨床研修指定病院、地域がん診療連携拠点病院（高度型）、地域医療支援病院、地域周産期母子医療センター等の指定、認定を受け、地域の基幹病院として高度な医療を推進している。		
(高度急性期) ICU 30床 救命救急病棟 44床 NICU 9床 GCU 6床 一般病棟 589床  計 678床	(急性期) 一般病棟（産婦人科・小児科）66床 緩和ケア病棟 20床  計 86床	(分類なし) 非稼働病棟 101床



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
病床を廃止するが、地域における基幹病院として引き続き高度で専門的な医療を推進し、信頼の得られる診療体制構築に努め、更なる地域医療の向上を目指す。
病床廃止後の跡地については地域医療介護総合確保基金を活用し、「和歌山県の医療提供体制の充実に資する施設」に用途変更する。
<地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等>
<div><input type="checkbox"/> 有</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 無</div> <div><input type="checkbox"/> 検討中</div> <div><input type="checkbox"/> 指定済み</div>

# 単独病床機能再編計画

機能区分	① 平成30年度 病床機能報告				② 令和2年4月1日時点				③ 現行（令和●年●月）				④ 病床機能再編後（令和5年1月～）			
	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数 (見込)
高度急性期																
急性期	1	急性期一般入院基本料4	43	42												
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料2	57	54									2	地域包括ケア病棟入院料1	99	99
慢性期	1	療養病棟入院料2	54	53												
分類なし (休棟等)																
計 (一般病床+療養病床)	3	—	154	149		—				—			2	—	99	
変更の概要													・急性期43床を地域包括ケア病棟へ転換し、 地域包括ケア病棟 2病棟99床へ再編 ・療養病床（54床）を廃止			

(①注) 平成30年度病床機能報告から転記する。  
「病床数」は病院のみ記入する。  
稼働病床数とは、最大使用病床数。

(②注) 令和2年3月31日までの間に病床機能・病床数を変更した場合に記載する。

(③注) 令和2年4月1日以降に病床機能・病床数を変更した場合に記載する。

(④注) 稼働病床数は、休床ではない病床数。

当院における現在の病床の状況、再編理由、 構想区域の現状・課題など 【詳細】				
当院の現状				
・平成28年11月に和歌山医療圏における地域医療構想を考慮し、 急性期100床から1病棟57床を地域包括ケア病棟に転換。				
・現在、一般病棟154床 内訳（急性期43床、地域包括ケア57床、療養54床）と 精神科病棟100床の計254床で、海南・海草郡のへき地拠点病院として 地域医療並びに精神科医療を担っております。				
・各入院患者の現状（稼働率）				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
急性期	67.3%	71.1%	60.8%	
地域包括	70.0%	70.4%	65.7%	
療養	80.8%	82.8%	78.5%	
精神	91.7%	91.7%	92.0%	



病床機能再編後の当院の体制・あり方
《急性期から回復期への診療転換》 海南・海草郡における地域医療と当院の役割を明確化 ・高度急性期・急性期病院からのポストアキュートの受入れ強化 ・地域の介護施設・在宅からのサブアキュートの受入れ強化 ・また、精神科病棟を有することで身体・精神合併症、認知症の受入れ強化 令和3年度より認知症疾患センターの指定を受ける
《療養病床の廃止》 当地域における地域包括ケアシステムの構築に努めます。 ・近隣医療機関・介護施設との連携強化 ・訪問診療の体制強化 ・リハビリテーション機能の強化 地域の在宅医療、施設連携の体制強化のための療養病床の廃止